
僕の初犯

猫小判

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の初犯

【Nコード】

N5509D

【作者名】

猫小判

【あらすじ】

いつも煙るタバコのむせるような臭いに混じって、鉄が錆びたような臭いが僕の鼻をつく。僕の汗腺は全て開き切り、冷たい嫌な汗が滝のように背を伝っていた。僕は取り返しのつかないことをしてしまったらしい……………

僕の手はかたかたと意志に反して震えることを止めようとし
ない。
動かないヒトガタ。

服は血を吸って、べったりと僕の肌に張り付いて何とも気持ち悪
い。

錆びた鉄の匂い。

辺りは真っ暗で、静寂が僕を押しつぶそうとしているかのよう。
耳に残る断末魔。

乱れた息は治まるどころか際限なく早まり乱れていく。

固まった心。

受け入れられない、受け入れたくないそれがだんだん心に染み渡
ってくる。

確固とした現実。

僕は痛いくらいの静寂に耐えられず、ぽつりと声を漏らした。

「死ん、じゃった………」

それを口にしたおかげで僕に逃げ道は既に無いのだと、そう実感
できた。できてしまった。

僕は、殺人を、犯したんだ――

そいつはどうしようもない社会のクズだった。

僕の記憶に残っている中でも一番若いそいつは、その頃からいつも
昼間から酒をあおっていた。優しくていつも笑顔だった母さんにと
きたま平手を打っていた。母さんはそんなそいつを困ったように見

つめながら、それでも何も言わなかった。僕は子供心に、こんな人間になりたくはないなあと思っていた。それが、確か小学校に上がる前のことだったと思う。

時は流れて、僕が小学校を終わった頃。

そいつは相も変わらず酒をあおっていた。

母さんは一生懸命に働いていた。

僕は幾らか物が分かる歳になって、そいつが世間で言う最低の父親だってことを分かってきた。僕は父親だなんて思っちゃいなかったけど、母さんはそんなそいつでも夫だと思っていたらしく、僕がそいつの悪口を言うと自分のことのように怒られたものだった。僕はそいつが母さんの信頼の上に胡座をかいて母さんを食い潰す最低な奴だと感じていた。

そんな寄生虫のようなそいつを抱えながら、家計が破綻しなかったのは奇跡のようなものだった。母さんは借金が無いことが自慢だといつも言っていた。僕の血縁上の父親がギャンブルに手を出さないことを、母さんはまるで聖人が起こす奇跡を語るように語っていた。今思えば、母親も病んでいたのだろう。

そんなある日。母さんが死んだ。過労死だった。病院で死因を聞いて、妙に納得したものだった。涙は出なかった。あいつと二人で将来を生きる絶望感が大きすぎて悲しみなんて感じている暇さえなかったのだ。ただ、あいつが号泣しているのがあまりに滑稽で可笑しかった。

それからのあいつは酷くなる一方だった。酒の量は増え、外で借金をこさえ、気分が悪くなると僕を殴りつけた。母さんが生きている内は一切手をつけなかったギャンブルにのめり込んでいった。僕はいつかあいつが思い直すことを空想しながら、必死で耐えた。中学校卒業までの辛抱だと自分自身に言い聞かせて。

それなのに、今こうして赤を垂れ流して倒れているモノと赤まみれになって立っている僕がいる。殺意が無かった訳ではなかった。

というより殺意を抑えることで毎日必死だった。ただ、そう。抑えていたそれがほんの少々決壊して雪崩を起こしただけ。僕の意志と言えば僕の意志なんだろうけど、それは絶対に事故に分類される出来事だった。

「すまない」

そんなのは、嫌だ。嫌だ嫌だ嫌だいやだイヤだ嫌だ嫌だイヤだ嫌だいやだイヤいやいやイヤ嫌イヤいや嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌嫌だ！

そう、僕はこれなんかのために塀の中に行く必要は無い。ならばどうする？　そう、消せばいいんだ。証拠であるコレを。生半可な隠し方じゃダメだ。それこそここにあったことを完全に抹消しないと。

（後書き）

失敗しました。感情移入とか状況妄想とかが足りませんでした。そして主人公に対して同情する余地がありました。それでも完成させてしまったので、どちら様かに辛くい批評を頂きたい次第であります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5509d/>

僕の初犯

2010年10月17日03時30分発行